宇喜多家史談会会報
第97号
令和8年1月24日

宇喜多家史談会
〒七〇〇-〇八二六
岡山市北区磨屋町六-二八
光珍寺気付

明治の剣豪・奥村左近太の奉公書から見える宇喜多氏

岡山県立博物館　副館長　内池英樹

一．奥村左近太とは

奥村左近太は、幕末から明治にかけて生きた岡山藩士です。天保一三（一八四二）年に一番町（現在の岡山市北区番町）に生まれ、剣術を学びました。左近太の名前が全国に広まったのは、明治に入り行われた天覧試合での活躍です。明治二七（一八九四）年一一月二日に広島大本営での試合では、天皇が側近に対して「あれが備前の奥村か」と言ったと伝わります。また、岡山城取り壊しの話が起こった際に、奥村左近太が反対をしたため、多くの建物が残されたとも言われています。

奥村左近太が岡山藩に提出した奉公書には、先祖が宇喜多直家、秀家に仕官していて、天正一〇（一五八二）年二月に起こった八浜の合戦で戦死したこと等が書かれてありました。以下、奥村左近太の先祖の記録から見る宇喜多氏についてご紹介したいと思います。

二．奉公書に書かれてある宇喜多氏

奥村家の先祖は、虫明姓を名乗っていました。それが関ケ原の戦いの後に、奥村姓に変わりました。以下、奉公書に掲出されている奥村家先祖について、原文のままご紹介したいと思います。改行等が本来はあるのですが、読みづらくなるのでここではすべてをつなげて示します。

（一）虫明市内と宇喜多直家

「史料一」

一、曽祖父虫明市内儀、浦上遠江守宗景罷有候、其節、備前津高郡辛川之城を預リ、知行七百貫領知仕候由

一、其後宇喜多直家相随、右之通領知仕罷有候処ニ、安芸毛利殿と児島八浜ニ而合戦之刻、宇喜多直家惣領宇喜多与太郎元家と一所ニ曽祖父市内并同世悴左近内父子共ニ討死に仕候、則辛川村葬、弐人之墓所有之、其所を市内山と申候由

最初に出てくる虫明市内は、当初は浦上宗景家臣だったとあります。辛川城主の記録として『御津郡誌』に、虫明市内の名前が出てきます。天正三（一五七五）年に浦上宗景が宇喜多直家によって備前・美作から追放された後は、宇喜多直家家臣となったようです。

次の項目では、八浜合戦の記述が出てきます。細かなことはわかりませんが、宇喜多元家と一緒に虫明市内と後継ぎの左近内の二人が戦死したと書かれています。「備前軍記等からは、乱戦になったことが分かっています。その中で二人が戦死したのでしょう。辛川村で葬られ、「市内山と呼ばれていた」とあります。岡山市北区西辛川の中に「今岡という場所があって、そこに虫明父子追悼碑があります。市内山からほぼ西に辛川城があることから、城の眼の前の小高い丘に二人を葬ったのでしょう(1)。

(1)中山中学ウォーキングマップ（二〇二五年七月二一日確認）

↑市内山遠景